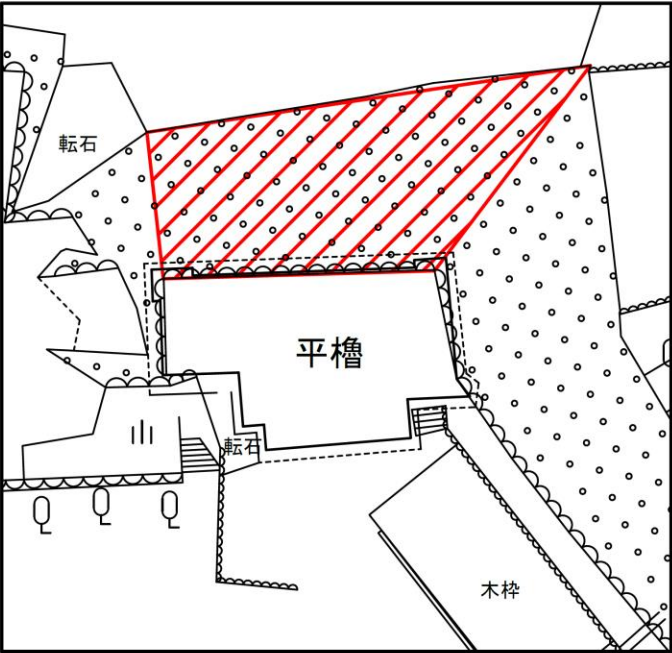


土台木に残る建物組立に伴う調整石の痕跡
この付近（北面中央）では土台木半分程度
築石が載っていたようである。

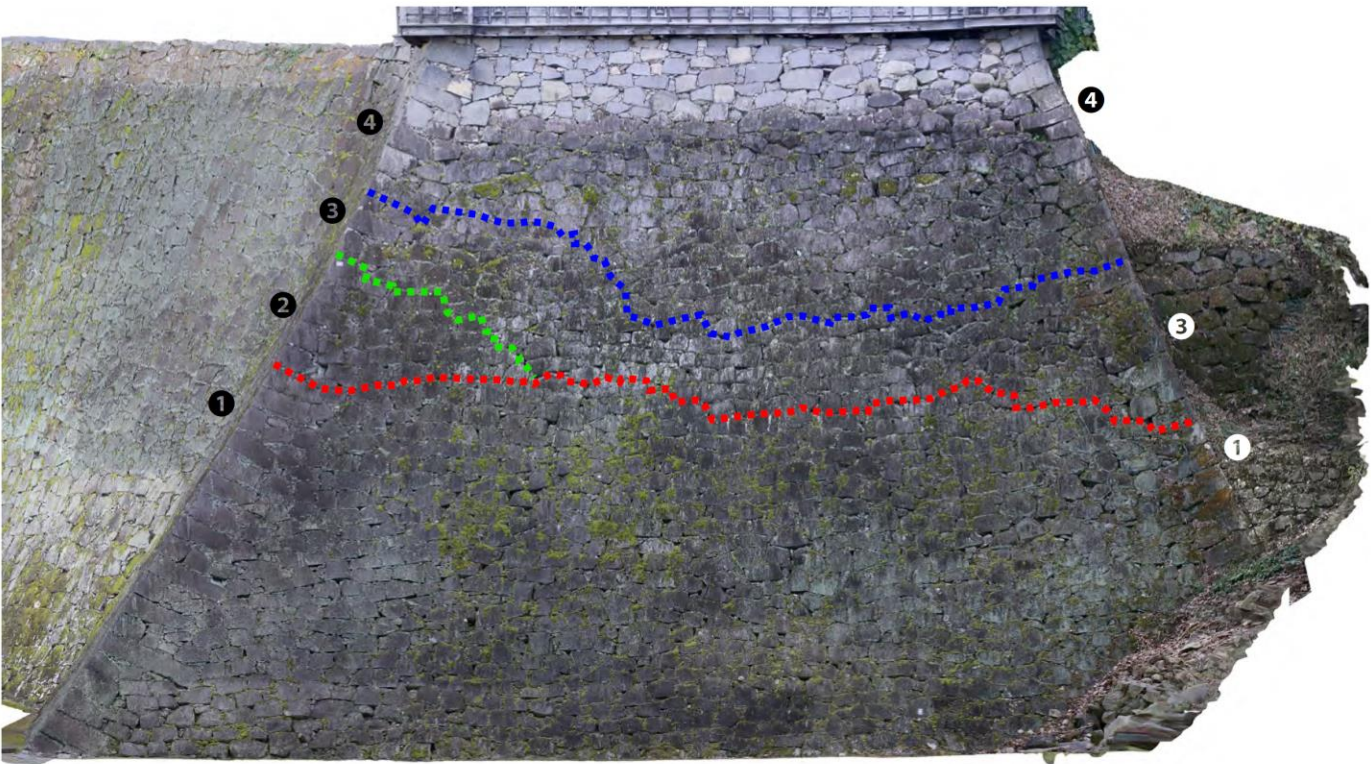
- 《石垣履歴把握について》
- ① 築石部：横目地通りにくい→非方形の築石が主体を成すが、方形を呈した築石も含む
隅角部：角石が算木積み状、基本的に単体角脇石が築石部と一部同化
【構築当初】
 - ② 築石部：水平方向に横目地が通る→方形を呈した築石
隅角部：角石が算木積み状、基本的に単体角脇石が築石部と一部同化
【1回目の石垣修理】
 - ③ 築石部：斜め方向に横目地が通る→方形を呈した築石
隅角部：角石が算木積み状、基本的に単体角脇石が築石部と一部同化
【2回目の石垣修理】
 - ④ 築石部：横目地通りにくい→非方形を呈した築石
隅角部：角石が算木積み状、基本的に単体角脇石が築石部と一部同化
【3回目の石垣修理】

《参考：現存櫓履歴》 ※熊本市1978報告書より

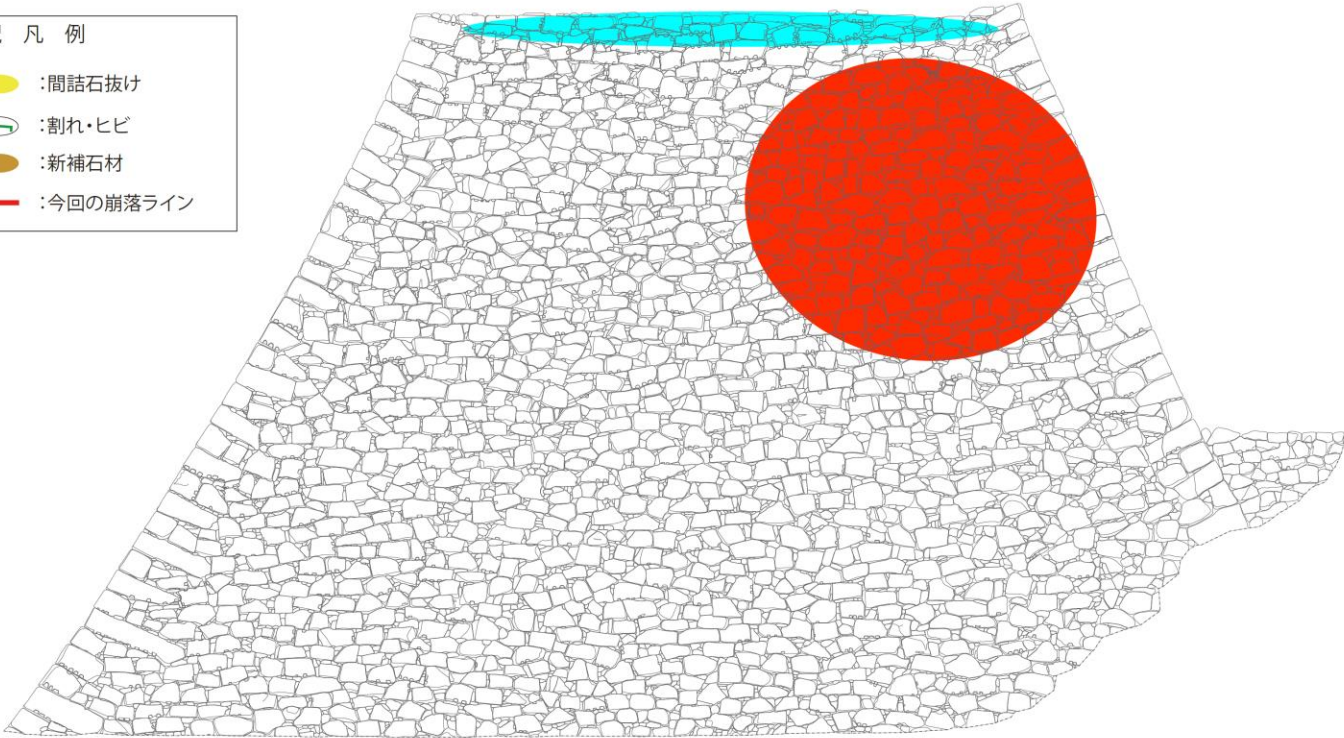
寛永10年(1633) 再建か(礎石下出土木札)
元禄前期(1690年代) 修理あるいは再建(瓦銘)
正徳5年(1715) 修理あるいは再建(瓦銘)
天明8年(1788) 修理あるいは再建(鬼瓦銘)
安政7年(1860) 修理あるいは再建(瓦銘)
昭和2年(1927) 修理あるいは再建(瓦銘)
昭和28年(1953) 解体修理
昭和52年(1979) 屋根葺替・塗装・部分修理



被害状況凡例			
● : 変形(膨らみ・緩み)	● : 間詰石抜け	○ : 割れ・ヒビ	● : 剥落
● : 突出・ズレ	● : 新補石材	— : 今回の崩落ライン	
● : 凹み			



H121(北面)
オルソ写真【石垣履歴図】



H121(北面)
被害状況図

※近接での詳細調査は未実施。

《石垣履歴把握について》

- ① 築石部：方形の築石が主体を成すが、非方形の築石も含む
- ※H121平櫓外側石垣の3回目の石垣修理に該当する可能性あり

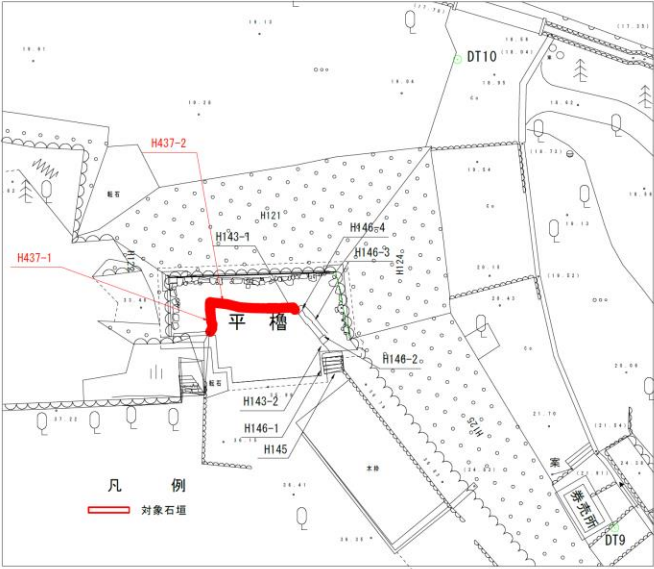


H437-1、H437-2
オルソ写真【石垣履歴図】

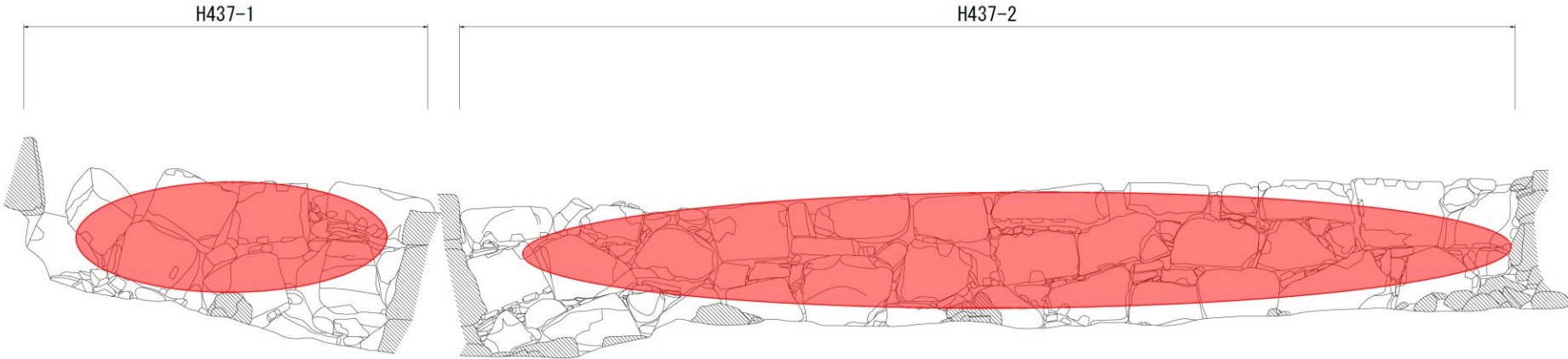


《参考：現存櫓履歴》 ※熊本市1978報告書より

- 寛永10年(1633) 再建か(礎石下出土木札)
- 元禄前期(1690年代) 修理あるいは再建(瓦銘)
- 正徳 5年(1715) 修理あるいは再建(瓦銘)
- 天明 8年(1788) 修理あるいは再建(鬼瓦銘)
- 安政 7年(1860) 修理あるいは再建(瓦銘)
- 明治 2年(1927) 修理あるいは再建(瓦銘)
- 明治28年(1953) 解体修理
- 昭和52年(1979) 屋根葺替・塗装・部分修理



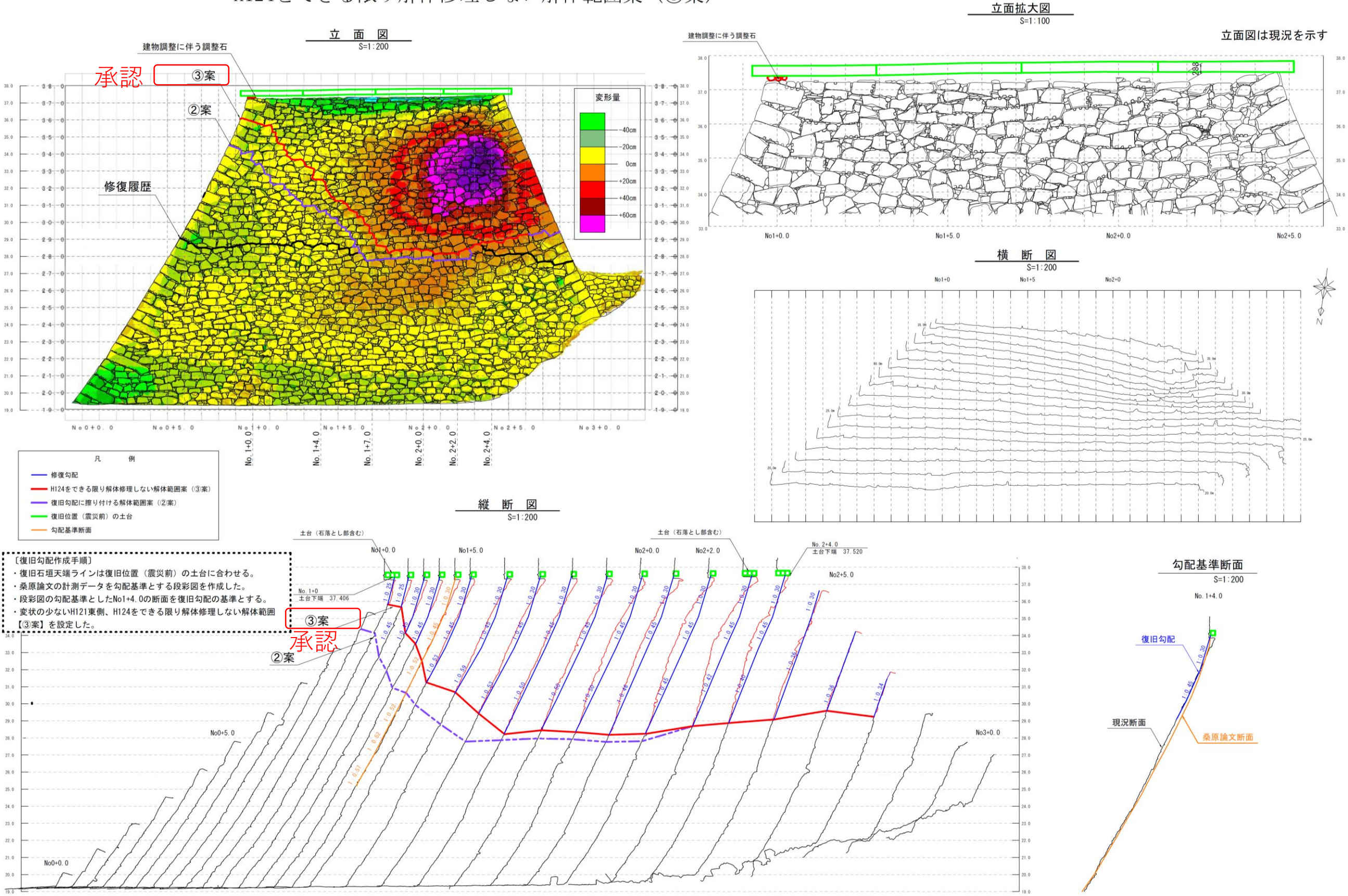
平 面 図



H437-1、H437-2
被害状況図

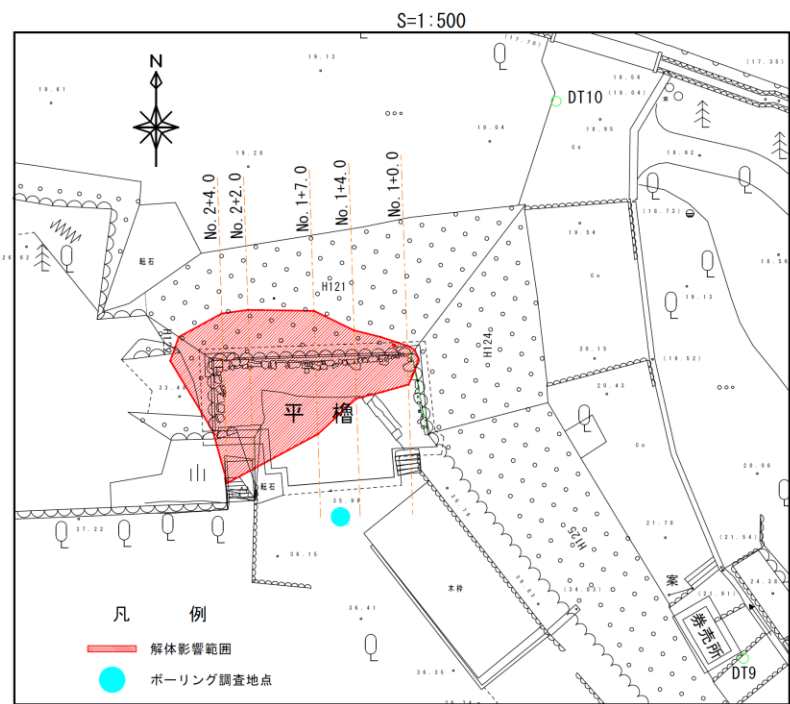


H124をできる限り解体修理しない解体範囲案（③案）



H124をできる限り解体修理しない解体範囲案（③案）

平面図



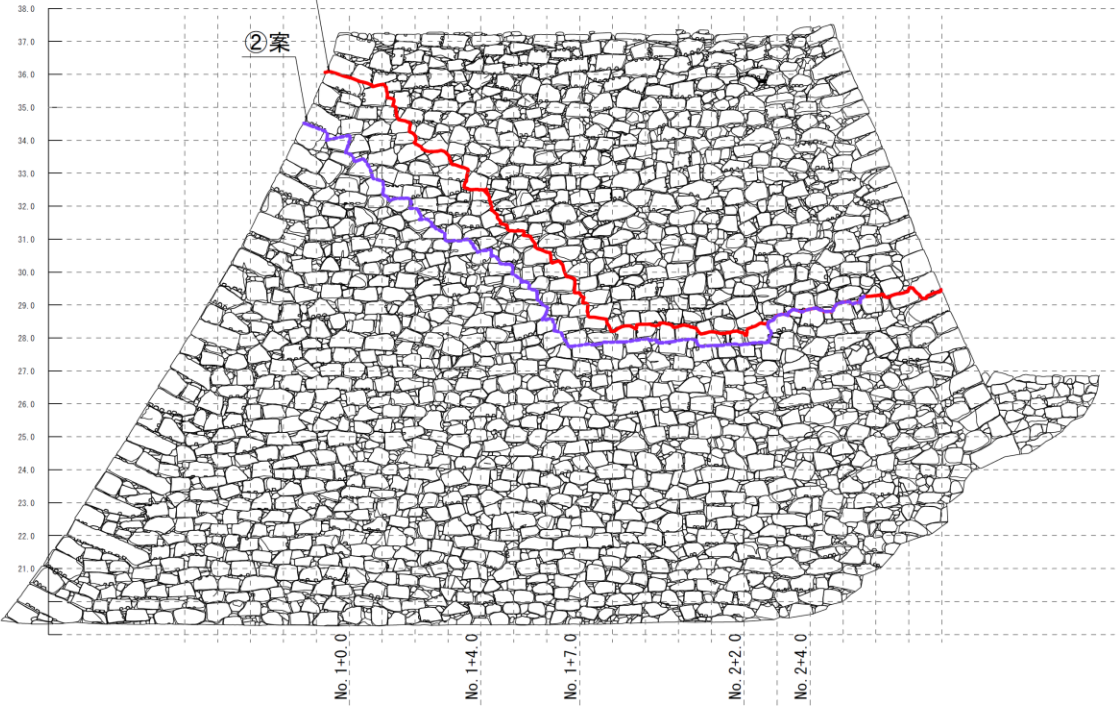
立面図

S=1:200

承認

③案

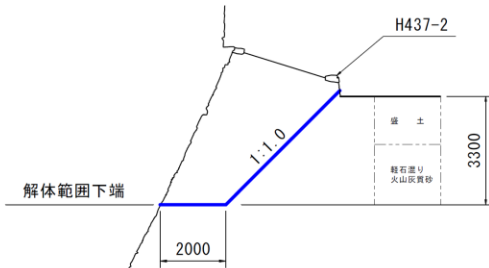
②案



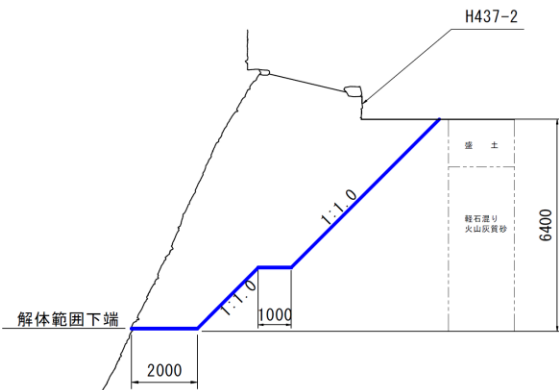
断面図

S=1:200

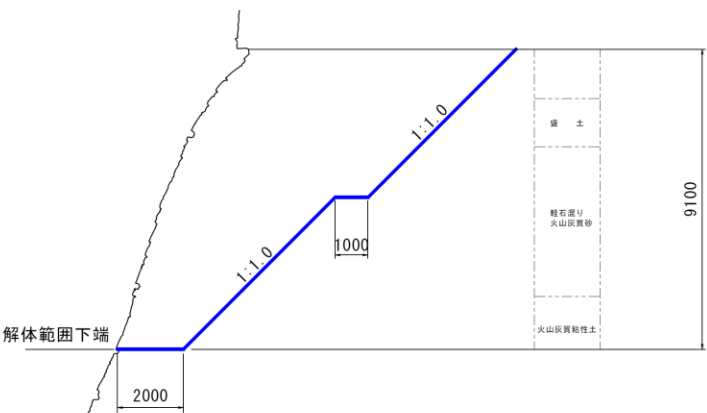
No. 1+4. 0



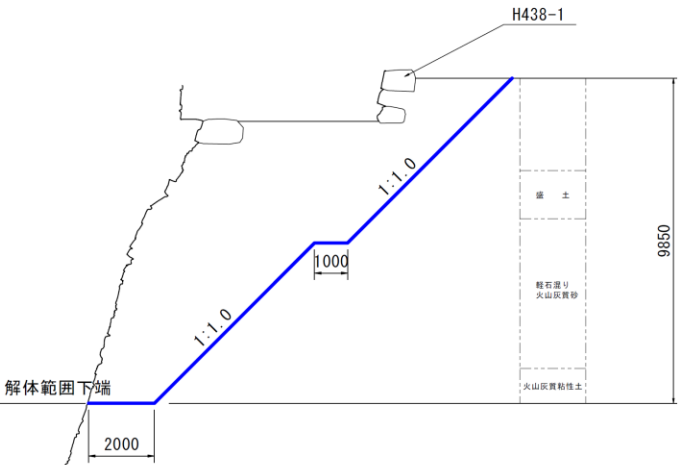
No. 1+7. 0

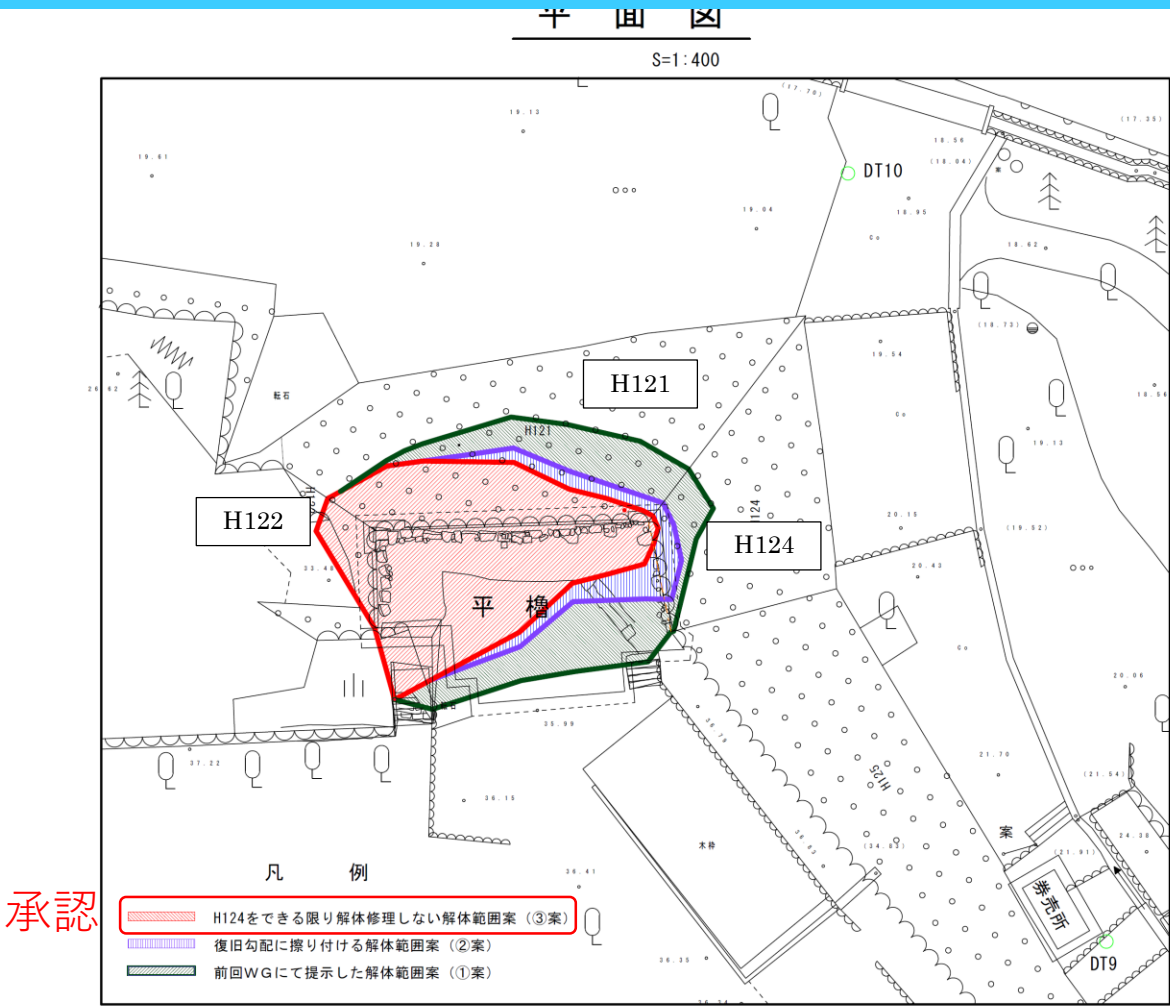


No. 2+2. 0



No. 2+4. 0



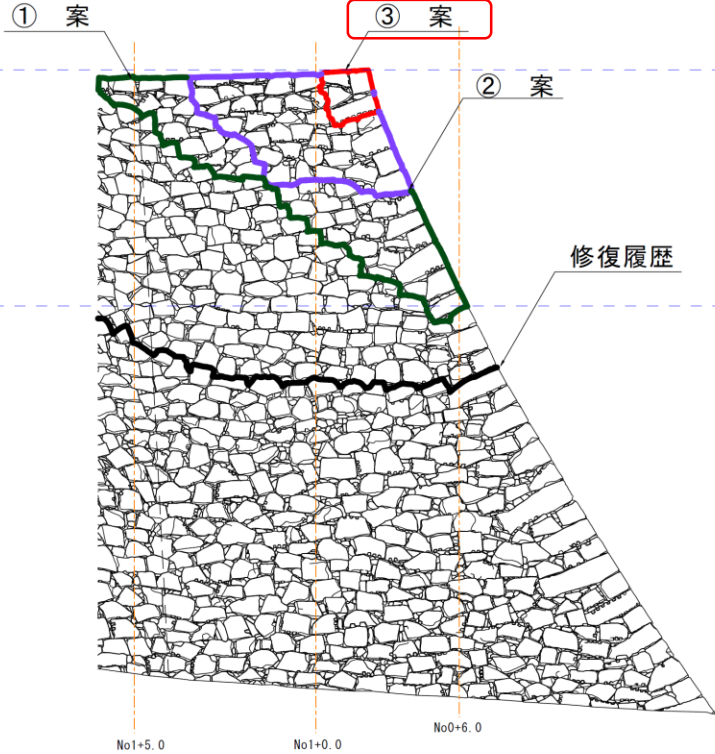


承認

立面図 (H124)

S=1:200

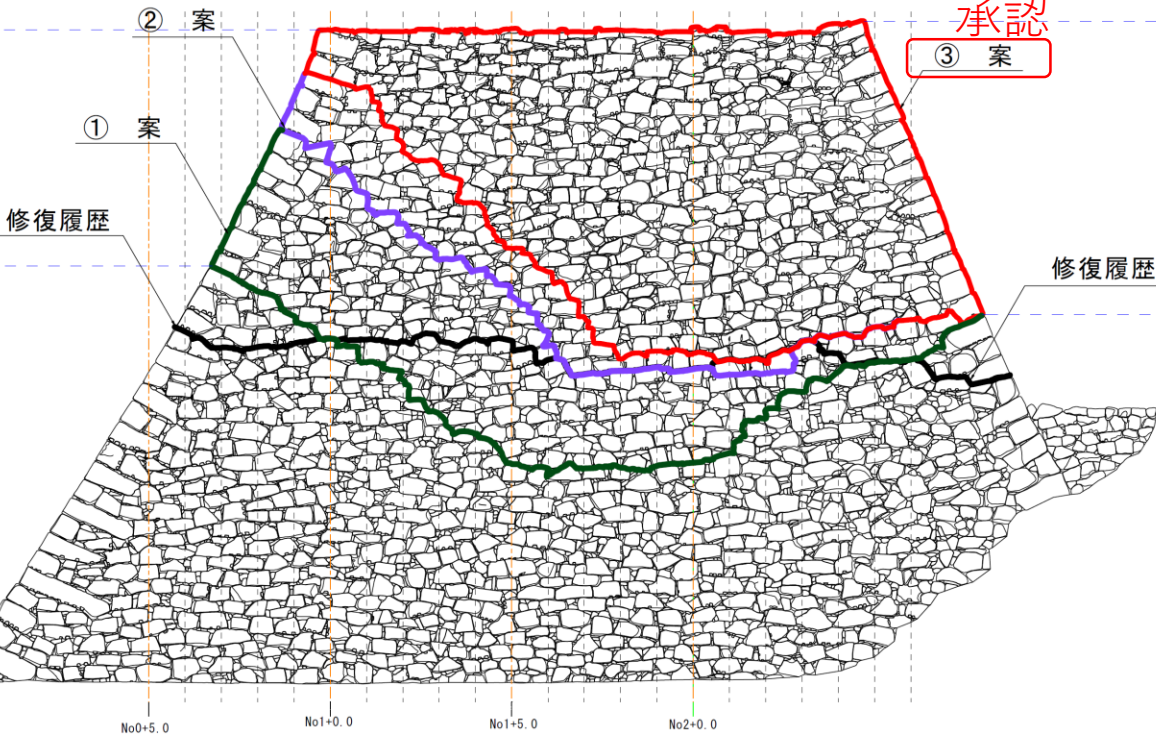
承認



立面図 (H121)

S=1:200

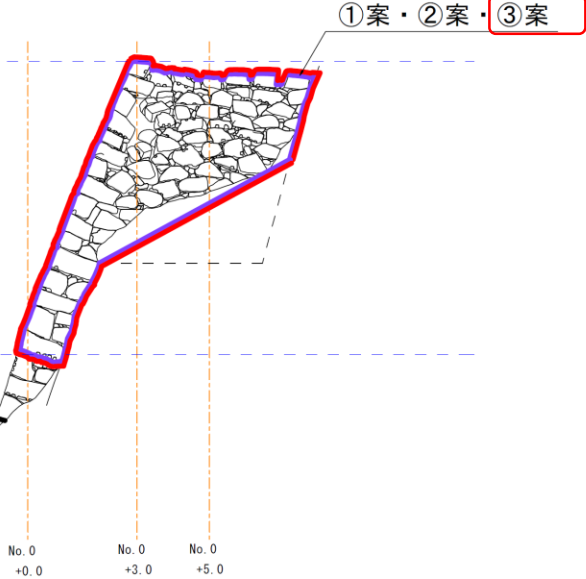
承認

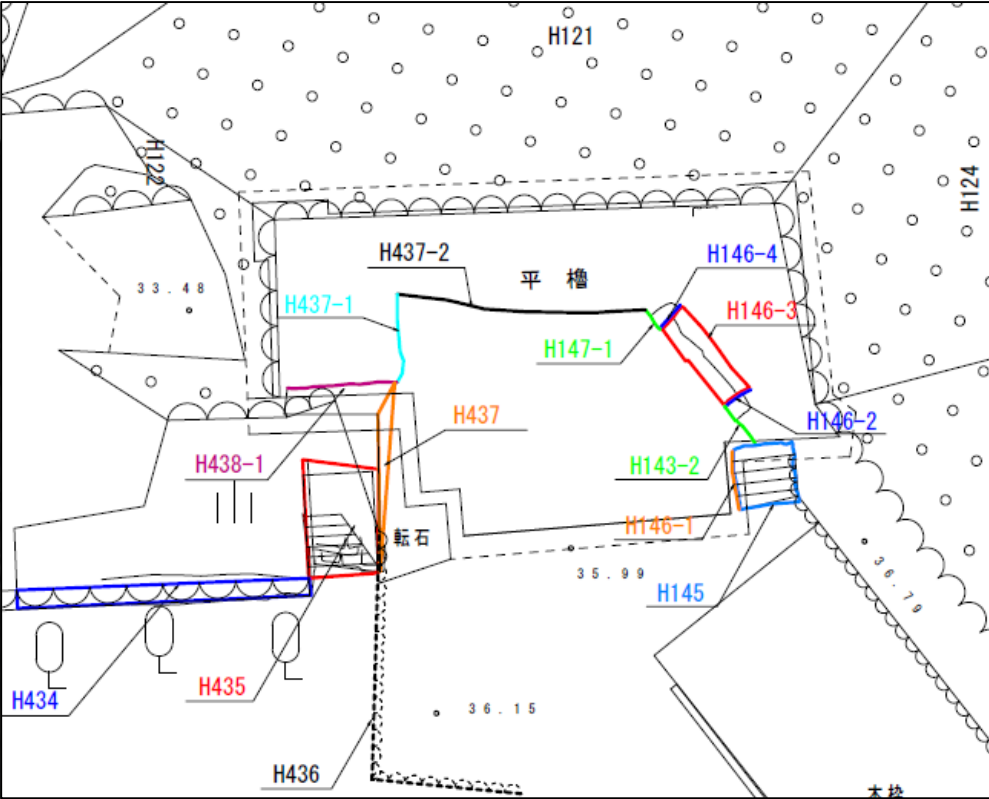


立面図 (H122)

S=1:200

承認





調査目的

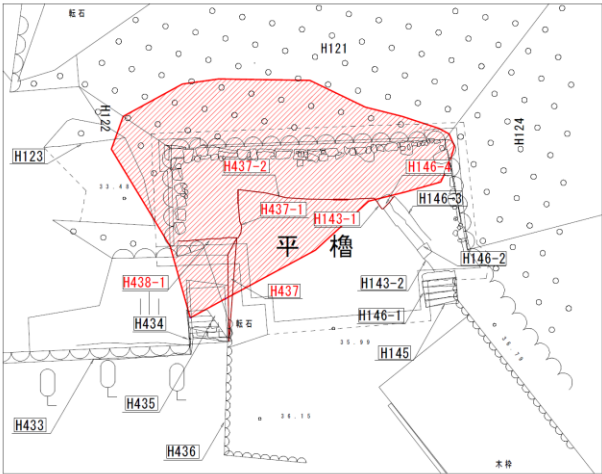
- ・平櫓曲輪側石垣の築造時期を把握するための事前確認調査
 - ・平櫓台石垣及び櫓の復旧方法を検討する材料とする。
- トレンチ 1：曲輪側石垣（H436・H437）の石垣基底部確認、曲輪側遺構面の確認
トレンチ 2：曲輪側石垣（H434・H435）の石垣基底部確認、曲輪側石垣（H436）背面と曲輪側遺構面の確認
トレンチ 3：曲輪側石垣（H144・H145）の石垣基底部確認、曲輪側石垣（H144・H145・H143-2）の背面の確認
上面調査：曲輪側遺構面の確認

H121、H122、H124解体修理範囲（右図赤塗箇所）承認【10.9合同WG】
H143-1・H146-4・H437-1・H437-2 ・H438-1は解体修理範囲に含まれる

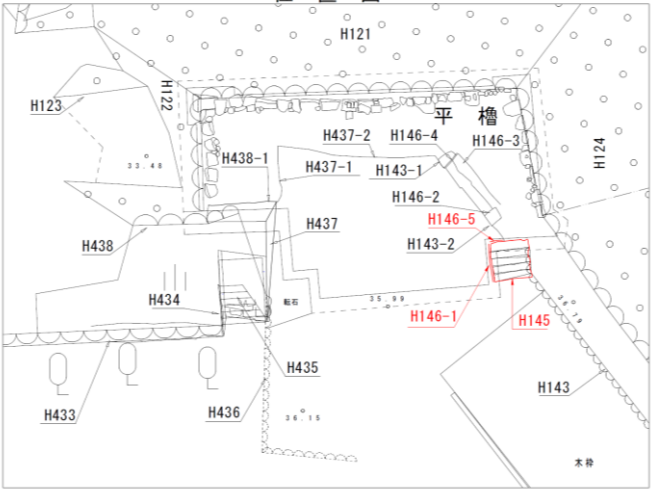
《石垣履歴把握について》

- ※H433・H434は享保4年(1719)修理のH438と同時期の積み直しの可能性あり
- ※H435はH437と同時期に積み直し、H434積み直しのあと
- ※H437はH437-1の乗り合い関係から、H121の3回目の石垣修理に該当する可能性あり
- ※H145・H146-1・H146-5は石段の配置状況からH143の一部を撤去して構築
- ※H436は昭和52年以降に増築

平 面 図



位 置 図

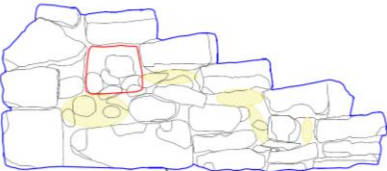


H146-5



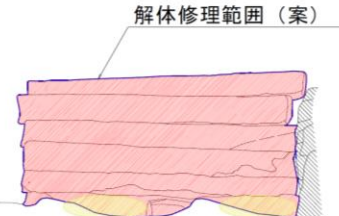
解体修理範囲（案）

H146-1



解体修理範囲（案）

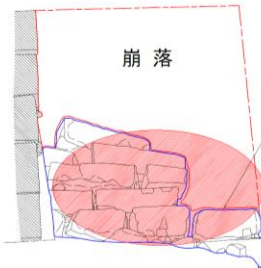
H145



解体修理範囲（案）



H435

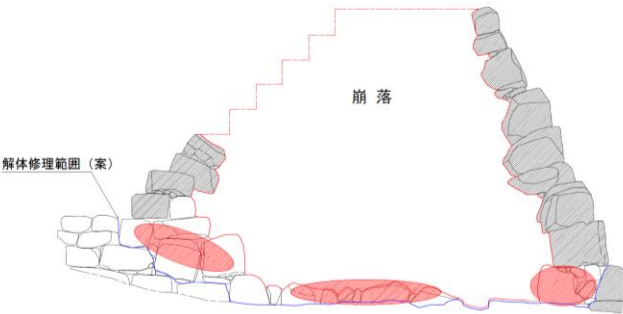


崩 落

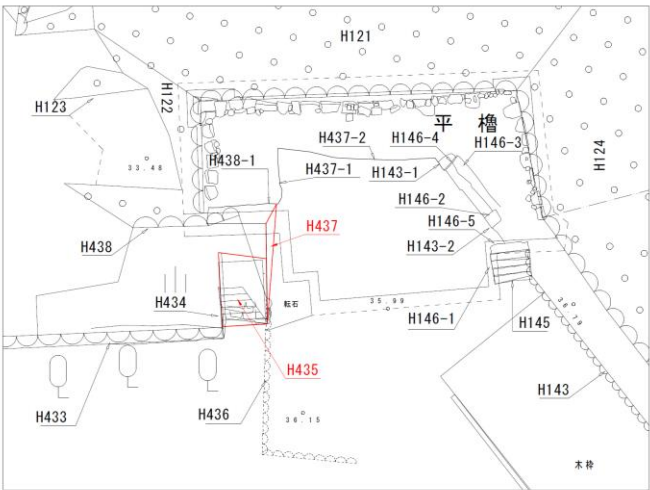
解体修理範囲（案）



H437



位 置 図



被 害 状 況 凡 例

- 変形（膨らみ・緩み）
- 変形（凹み）
- 剥落
- 間詰石抜け
- 割れ・ヒビ
- 新補石材
- 今回の崩落ライン